

栗原の稲作通信

令和3年第1号 令和3年6月3日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9404

分けつ促進のため浅水管理を基本としましょう / いもち病の要因となる残苗を処分しましょう

気象経過

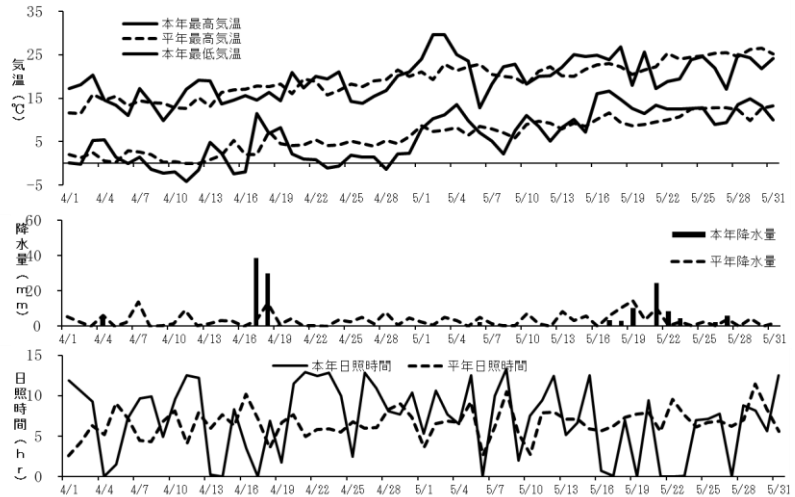
- 4月：気温は下旬が低温傾向でしたが概ね平年並、降水量は平年並、日照時間は多くなりました。
- 5月：気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並となりました。

東北地方1か月予報

期間：5/29～6/28
仙台管区气象台5月27日発表より要約

暖かい空気が流れ込みやすいため、
向こう1か月の気温は平年並か高い

予想される向こう1か月の天候
平均気温：平年並か高い の見込み
降水量：ほぼ平年並 の見込み
日照時間：ほぼ平年並 の見込み



気象経過（アメダス築館）*点線は平年（過去5か年平均）

播種・田植え状況

- 播種盛期（50%終了）は、平年より1日遅い4月14日、
播種終期（95%終了）は、平年より2日遅い4月25日となりました。
- 田植盛期（50%終了）は、平年より1日遅い5月15日、
田植終期（95%終了）は、平年より2日遅い5月25日となりました。

生育経過

- 葉数は平年を下回っていますが、生育はいずれも順調です。平年と比較して、草丈は平年並からやや長く、
茎数はやや少なくなっています。

表1 生育調査ほ調査結果（6月1日調査）

調査ほ場 品 種	区 分	田植日	田植時調査			苗質調査		6月1日			
			栽植密度 (株/m ²)	植付 本数	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	増加茎数 (本/m ²)
① 築館 ひとめぼれ	本年	5月9日	16.7	5.4	90	13.3	3.2	31.7	130	5.3	40
	前年比・差	3日遅い	105%	150%	158%	106%	0.7	111%	155%	-0.2	148%
	平年比・差	4日遅い	102%	132%	133%	98%	0.4	110%	80%	-1.1	43%
② 若柳 ひとめぼれ	本年	5月19日	18.1	5.6	101	17.7	4.2	23.2	116	4.8	14
	前年比・差	1日早い	98%	112%	110%	118%	1.5	136%	101%	0.7	65%
	平年比・差	並	94%	117%	110%	111%	0.9	105%	93%	-0.4	44%
③ 一迫 ひとめぼれ	本年	5月8日	19.3	4.6	89	14.4	2.2	23.5	102	4.7	14
	前年比・差	5日早い	103%	177%	183%	115%	-1.3	111%	156%	-0.1	80%
	平年比・差										
ひとめぼれ 管内平均	本年	5月12日	18.0	5.2	93	15.1	3.2	26.1	116	4.9	23
	前年比・差	1日早い	102%	139%	141%	113%	0.3	117%	132%	0.1	103%
	平年比・差	並	101%	116%	116%	102%	0.1	102%	81%	-0.9	36%

※1 調査ほ場の平年値は過去5年平均。

※2 一迫ひとめぼれは、令和2年から調査農家変更のため、平年値はなし。

※3 ひとめぼれ管内平均は、前年比・差は3カ所、平年比・差は2カ所（一迫除く）。

※4 本年から6月1日調査は「ひとめぼれ」のみの実施となりました。「つや姫」、「だて正夢」、「萌えみのり」は6月10日調査から実施します。

今後の管理

■水管理

- ・活着後は2～3cm程度の浅水で管理し、水温・地温を高めて分げつの発生を促しましょう。
極端な低温が続くと予想される場合には、水深を5～6cmの深めにしてイネを低温から守りましょう。
- ・生わらや牛ふん堆肥などの有機物を多用している水田では、気温の上昇とともに有機物の分解が盛んになり、イネに有害な硫化水素などのガスが発生しやすくなります。このような場合は、溝切りや落水管理を行い、根の活力低下を防ぎましょう。
- ・除草剤を使用する場合は、使用上の注意事項をよく読み、適切な水管理に努めましょう。

■雑草対策

- ・表層剥離が多発すると、フロアブルやジャンボ剤では拡散が妨げられ濃度のムラが生じ、局所的に薬害や残草が生じます。藻類や表層剥離の発生が懸念される場合には、徐々に落水して浅水管理を行い、降雨時には落水して田面に雨が当たるように管理しましょう。除草剤散布前に藻類や表層剥離が目立つ場合は、田面水を交換してから除草剤を散布するようにしましょう。ただし、除草剤散布後7日間は必ず止め水してください。
 - ・ほ場の残草状況を確認し、草種と葉齢に応じて、中期剤の使用を検討しましょう。
 - ・ノビエ、イヌホタルイ、シズイなどの雑草により、斑点米の原因となるアカスジカスミカメが水田内で増殖して被害が助長されます。
- * JA新みやぎ栗っこ環境保全米等では、使用できる除草剤の指定がありますので、JAに御確認願います。

■病害虫防除

▷いもち病

- ・補植用残苗はいもち病の発生源となりますので、補植が終了したら直ちに処分しましょう。
- ・飼料用米や直播栽培など、箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、各種水面施用剤を散布しましょう。

▷イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ

- ・箱施用剤を使用した場合 ……本田での防除は必要ありません。
箱施用剤を使用しなかった場合 ……要防除密度（下記参照）により防除の実施を判断しましょう。

* JA栗っこ環境保全米等では、使用できる農薬に制限がありますので、JAに御相談願います。

要防除密度

イネミズゾウムシ	畦畔際2m程度の成虫密度 140頭/100株（晩期栽培は70頭/100株）
イネドロオイムシ	成虫密度 25頭/100株 または 産卵最盛期の卵塊密度 80個/100株

■春の農作業安全確認運動実施中 実施期間 4月1日～6月30日

「見直そう！農業機械作業の安全対策」

トラクター等の整備不足や操作ミスが転落・横転・追突の事故を引き起こします。農機事故を未然に防ぐために備えるべき機器（ランプ等）や操作時の安全確認と予防対策をもう一度考えてみましょう。

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。